

令和4年1月28日

瀬戸内海クルーズ推進会議

海外の旅客ターミナル等における 新型コロナウイルス感染症対策

一般財団法人 みなと総合研究財団

海外の旅客ターミナル等での 新型コロナウイルス感染症対策について

	概要
基隆港 (台湾)	<ul style="list-style-type: none"> アジアで最初に再開クルーズを行った発着港。 3段階、5ステップの外国船社によるクルーズ再開計画により国内の複数港に寄港するクルーズを運航中 クルーズ再開前のクルーズ船乗務員の検疫、ターミナルの消毒の強化、大型連休等の繁忙期における感染症対策等を実施
シンガポール港 (シンガポール)	<ul style="list-style-type: none"> マリーナベイ・クルーズセンターでは、駐車場のワンフロアを乗船前の綿棒テスト用の医療センターに変更している。 シンガポールでは、新型コロナウイルスの感染者を追跡し、濃厚接触者を特定する「Trace Together」システムが普及しており、シンガポール港から乗船する全ての乗客は、同システムの利用が義務付けられている。
上海港	<ul style="list-style-type: none"> 2020年1月のCovid-19発生直後に、ターミナルでの体温検査の実施、発生の予防と管理のための地方自治体、税関、入国審査、公安、クルーズ船社が共同して、予防と管理の仕組みを設定し、運用した。
香港港	<ul style="list-style-type: none"> 2021年7月にカイトック・クルーズ・ターミナルから運航再開したが、現在休止中。2月4日より再開予定。 同ターミナルでは、2020年10月に「カイトック・クルーズ・ターミナルの防疫対策について」という文書を発出。
チビタベッキア港 (ローマ・クルーズ・ターミナル、イタリア)	<ul style="list-style-type: none"> チビタベッキア港のローマ・クルーズ・ターミナルは、2020年8月にコロナ後のターミナル運用に関するガイドラインを作成。 チビタベッキア港には、ドライブイン形式のCovid-19のテストセンターが設置されている。
ポーツマス国際港 (イギリス)	<ul style="list-style-type: none"> 世界有数の認証機関の一つであるDNV GLのMyCare認証を取得。 ターミナルには、非接触で体温測定する熱画像スキャナーを設置。
ポート・エバークレーズ港 (アメリカ)	<ul style="list-style-type: none"> 2021年6月26日にCOVID-19による停止後、初めてアメリカにおける有料クルーズが、ポート・エバークレーズ港から出発予定。 2021年の同港のパンフレットはCOVID-19対策の概要を記載している。
ポート・カナベラル港 (アメリカ)	<ul style="list-style-type: none"> 港内にポート・カナベラル港とフロリダ州がCOVID-19 ワクチンセンターを設立(港内でのワクチン接種は、ロサンゼルス港やポート・エバークレーズ等でも実施) CDCに承認されたテスト航海の発着港(ディズニークルーズ、ロイヤル・カリビアン・インターナショナル)に選定。

海外の旅客ターミナル等での 新型コロナウイルス感染症対策について

●基隆港

- ターミナルの入場情報を記録するためのQRコードの掲示



●上海港

- オンラインアプリによる事前チェックインできるシステムが導入によって搭乗時間を30～45分短縮

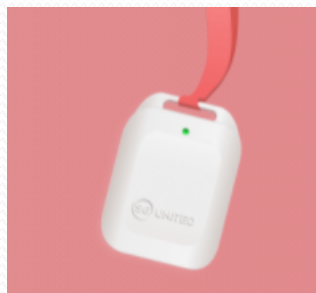


- 消毒体制の強化



海外の旅客ターミナル等での 新型コロナウイルス感染症対策について

●シンガポール港



【TraceTogether システムの
物理的デバイスのトークン】

- ・ プラスティックのケースにバッテリーとBluetoothのセンサーを内蔵したもので、これが接触者追跡アプリと同じように機能する



【SafeEntryシステム】

- ・ SafeEntryシステム受信機にTraceTogetherのアプリをインストールしたスマートフォンまたは、TraceTogetherのトークンを近づけて個人の入場情報を記録する

【ターミナルでの乗船前の健康チェック、検査】

- ・ マリーナバイクルーズターミナルでは、シンガポール観光局(STB)からCruiseSafe認定を受けた上で早期に運航再開した(2020.11)。

※CruiseSafe認定:

搭乗前の必須のCovid-19テスト、船内での厳格かつ頻繁な清掃および消毒プロトコルの実施、誰かがCovidの検査で陽性になった場合の緊急対応計画の策定など、CruiseSafe基準を達成する必要がある。



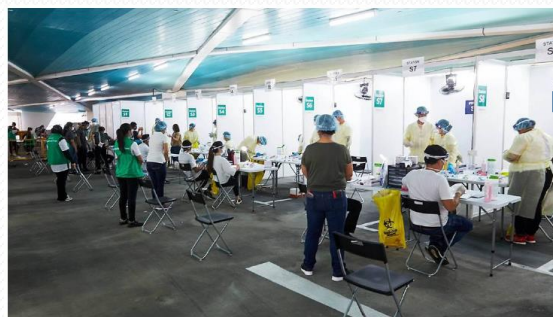
①待合室で搭乗前の健康アンケートに記入



②検査前の体温チェック & 詳細情報の登録



④検査結果を待つ待合エリア



③ 綿棒による検査/マリーナバイクルーズセンターの駐車場 3階は、フロア全体が綿棒テスト用の仮設医療センターに変更



海外の旅客ターミナル等での 新型コロナウイルス感染症対策について

●香港港

- 【カイトッククルーズターミナルの防疫対策】
- UV-C殺菌(深紫外線殺菌)を通過する空調システム(HVAC)
 - 移動式の紫外線除染装置
 - 「エクセレントクラス」の室内空気質評価、および迅速な換気率
 - 乗客エリアの洗面所に非接触の装置(石鹸、タオル、水)の設置
 - 温度監視システムのアップグレード
 - 接触面の頻繁な清掃・除菌
 - スタッフによる毎日のチェックとPPE(個人用保護具、マスク等)の提供
 - クルーズラインの旅客担当者が、社会的に距離を置いたオペレーションをするためのスペースの整備
 - ターミナル(オンサイト)に港湾医療施設・陰圧隔離室を整備



●ポーツマス港

- スタッフの体温をチェックするために新しく設置された熱画像スキャナーに加えて、ターミナルは社会的距離を保つために容量とスペースを削減し、ターミナルを通過するすべての人にフェイスカバーが義務付けられるなどの取り組みも行っている。
- また世界有数の認証機関の一つであるDNV GLのMyCare認証を受けている。

※MyCare認証:
サービスが再開されるため、効果的な感染防止対策を採用していることを実証できるように開発されたものである。

温度スキャナー		<ul style="list-style-type: none"> すべての港務スタッフは、作業を開始する前に非接触スキャナーで温度を測定し、乗客とスタッフの両方を保護する スキャナーは、船客が乗客に使用することもできる
手指消毒剤		<ul style="list-style-type: none"> 乗客にできるだけ頻りに手を洗うことを奨励 すべての公共エリアに手指消毒剤のディスペンサーを設置し、定期的に補充
最小限のタッチポイント		<ul style="list-style-type: none"> 近代的なターミナルビルには、物理的な接触を減らす自動ドアが装備 洗面所には、ハンズフリーのトイレの洗浄装置や洗面台の蛇口、乾燥機を装備
社会的距離		<ul style="list-style-type: none"> 港とターミナル内では、誰もが安全な距離を保つよう一方通行の標識を設置するなど、社会的な距離を置く対策を実施 乗客の座席エリアも、各席の間隔を離している
清掃の強化		<ul style="list-style-type: none"> 殺菌効果のあるクリーナーを使用 手の触れる部分には特に注意払って清掃する 清掃頻度を高める
駐車場		<ul style="list-style-type: none"> 敷地内にある立体駐車場では、乗客が安全に距離を保つことができる ターミナルから徒歩圏内にあるセルフパーキングを利用可能 パーカーバレー(車が駐車サービスを代行し、外出時に車を引出してくれる有料サービス)利用可能

乗り換えバス		<ul style="list-style-type: none"> 港の専用送迎バスに乗るドライバーは、COVID-19の予防措置のトレーニングを受けている 社会的な距離を保つために容量(乗客定員)を減らし、バスの入口に手指消毒剤を用意している
空気供給		<ul style="list-style-type: none"> ターミナルの空気供給には、環境に配慮したウィンドキャッチャーを採用し、自然な空気を継続的に供給している
セキュリティ管理		<ul style="list-style-type: none"> ウォークスルー型金属探知機、携帯型金属探知機、X線装置などのスクリーニング機器を使用することで、身体的接触を最小限に抑えている
顔の覆い		<ul style="list-style-type: none"> ターミナル内では、政府が定めたルールに従い、全員がフェイスカバーを着用する必要がある
保護シールド		<ul style="list-style-type: none"> しゃみガードは、乗客のチェックインカウンターや、セキュリティコントロールポイントに設置

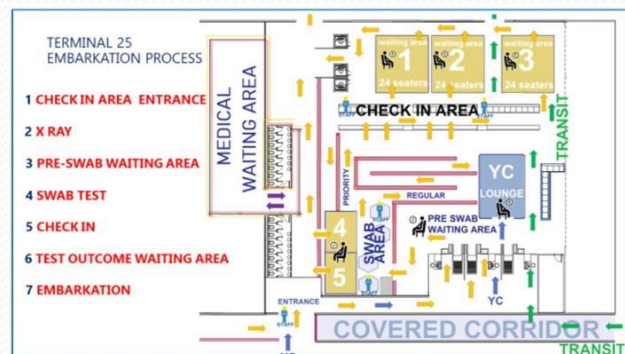
海外の旅客ターミナル等での 新型コロナウイルス感染症対策について

●チバタベッキア港

- ・ローマ・クルーズ・ターミナルのターミナル運用ガイドラインに沿った対応
- ・港湾エリアのドライブインにCOVID-19テストセンター開設し、迅速な陽性者の特定を実施

(ガイドラインの構成)

- | |
|-----------------------|
| 1.はじめに |
| 2.参考文献 |
| 3.目的 |
| 4.運用活動 |
| 4.1 乗船時の手順 |
| 4.2 チェックイン時の手順 |
| 4.3 下船時の手順 |
| 4.4 寄港時の手順 |
| 4.5 乗務員の手順 |
| 4.6 クルーズ前、クルーズ後の清掃の手順 |
| 4.7 管理要件 |
| 4.8 一般的なルール |



乗客導線の設定(乗下船別)



国際機関発出のガイドライン策定状況

- 2022年1月現在、ガイドラインの策定状況は次のようになっている。

機関名	取り組みの概要
EU HEALTHY GATEWAYS EUヘルシーゲートウェイ	<ul style="list-style-type: none"> ➤ COVID-19パンデミックに対応した制限措置の解除後におけるクルーズ船の運航を再開するためのアドバイスを記述したガイドラインを2020年5月12日に発行、2021年4月改定。 ➤ 港湾での対策に関しては、寄港地での乗客によるエクスカージョンの条件やクルーズターミナルでの考慮事項(身体的距離、マスクの着用、消毒の徹底、換気、関係者の健康観察、接触者等の管理等)が挙げられている。
EMSA 欧州海上保安機関 ECDC 欧州疾病予防センター	<ul style="list-style-type: none"> ➤ COVID-19に関連したEUでのクルーズ船運航の段階的かつ安全な再開に関するEMSA-ECDC合同のガイダンスを2020年7月27日に公表、2021年5月12日改定。 ➤ このガイドラインの構成は、「船舶管理」「港湾管理(ターミナル管理)」「船舶と港湾とが連携した管理」の3部に分かれており、クルーズ船の再開に向けた、より具体的な対策や手順が記載されている。
CDC 米国疾病予防管理センター	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 2020年10月30日「Framework for Conditional Sailing Order(CSO)」の公表により、クルーズ船の運航再開に向けて段階的なアプローチを発表した。 <ul style="list-style-type: none"> フェーズ1 乗組員の集団検査と船内検査装置の取得(CSOの発表と同時に命令) フェーズ2A 模擬航海および収益航海の準備(船社と関係機関による協定の締結) <ul style="list-style-type: none"> →関係者の協定の【技術的指示】を2021年4月公表 フェーズ2B 船内の健康・安全プロトコルを試行するための模擬航海の実施 <ul style="list-style-type: none"> →模擬航海・制限付き航海の【運航マニュアル】を2021年5月公表 フェーズ3 COVID-19条件付航行証書の申請 フェーズ4 公衆衛生上の注意を要する制限付きの旅客収入のある航海の開始 上記CSOは延長が繰り返されたが、2022年1月15日に失効し、現在は自主プログラムに変更されている。

ガイドライン記載内容の変遷

● EU

	EU HEALTHY GATEWAYS	EMSA/ECDC
第1版	➤ 2020年5月12日公表	➤ 2020年7月27日公表
第2版にて追加	➤ 2021年4月改定 <ul style="list-style-type: none"> 接触者およびケースの定義 (目的に濃厚接触者等の定義を追加) 乗組員および乗客の診断検査方針 (「乗船当日の乗客の診断検査」を追加。全乗客は乗船日に検査を受ける必要がある等。) マスクの使用 (「マスクの使用による飛沫感染の防止」に入手可能な場合はより医療用マスクよりさらに効果的なレスピレーターを使用させること、マスクは、乗船および下船中、ターミナルステーションへの入場時またはターミナルステーションに滞在時、ならびに陸上でのアクティビティ/エクササイズ中に常に使用する必要がある等を追加。) ワクチン接種に関する考慮事項 (「乗客のワクチン接種」、「乗組員のワクチン接種」に関する項目の追加。ワクチン接種の推奨等。) 	➤ 2021年5月12日改定 <ul style="list-style-type: none"> 船上オペレーションに「マスクの着用に関するより厳しい推奨事項」、「安全、環境、セキュリティに関連する緊急時の手順」 船上での感染発生後に運航に戻る手順 訓練・その他の要素に関する観察の検証(船社の各種計画等の第三者による評価検証の推奨) 港湾の緊急対応プラン作成・評価のためのEUヘルシーゲートウェイツールについて 関係者のワクチン接種を推奨する言及を追加 ECDCによる渡航者へのCOVID-19の検疫および検査に関するガイダンスについて 重要手順を試す訓練の実施に関する提案紹介 運航区域ごとの港湾管理プラン作成のための共通の枠組みの可能性の照会 クルーズ船と港湾の調整に関する追加的要素および単一連絡窓口の定義に追加 港湾および現地保健当局の合意に関する条項を追加

ガイドライン記載内容の変遷

● アメリカ(CDC)

	概要
2020年3月14日	クルーズ船に対する運航禁止令、延長、関連措置が発令
2020年10月30日	【条件付き航行令の枠組み(CSO)及びフェーズ1の指示】を公表
2021年4月2日	【船社と港湾・地方保健当局の協定の技術的指示】を公表
2021年5月5日	【模擬及び制限付き航海の運航マニュアル】を公表。
2021年5月14日	【運航マニュアル】に次を追加 ・乗客の乗船時審査/乗客の乗船時と下船時の検査/検査方法の選定、検査の仕様 ・症状のある乗客と濃厚接触者を対象とする船上での検査
2021年5月18日	【運航マニュアル】に次を追加 ・下船時の検査は4泊以上のクルーズ船のみを対象とすることを明確にした
2021年5月26日	【運航マニュアル】次を追加 ・クルーズ船社にワクチン接種完了済みの旅行者については自由裁量を付与 ・乗務員・乗客の 95% 以上がワクチン接種済みの船に追加の裁量権を付与
2021年7月13日	【運航マニュアル】に次を追加 ・クルーズ船社に、患者とワクチン未接種の濃厚接触者の寄港地における管理計画の策定を求める。 ・検査の情報を更新、ならびに自己診断検査(Self-tests)の利用に関する追加要件を提示
2021年8月27日	【運航マニュアル】変異種等の発生により、緩和したマスク着用方針を自主的に再考するよう助言
2021年10月25日	【条件付き航行令の枠組み(CSO)】の延長と修正 ・適用対象を米国の管轄区域で運航する「外国籍」のクルーズ船に限定 ・削除:CSO証明書の取得・維持条件:航海日数の7日制限 ・削除:COVID-19の船内での確認後、直ちに航海を終了し、出港地に戻ることに ・追加:「レッドシップ基準」を満たした場合、航海を終了し、乗船港に返送
2021年11月1日	【条件付き航行令の枠組み(CSO)】の延長と修正に関する以下の変更内容を明確にするために更新 ・対象を米国の管轄区域で運航する「外国籍」のクルーズ船に限定 ・以前からCSOの対象であった米国籍のクルーズ船は、引き続き自主的に参加が可能

世界のクルーズ再開の動き（2021.11時点）

- 2021年9月末時点で世界に就航するクルーズ船の約半数が運航を再開。
- 2021年11月時点では、計64船社、230隻のクルーズ船が運航を再開。さらに、乗客の感染者も非常に少なく、安心・安全なクルーズが運航できていた。

クルーズ再開状況（2021.9時点）

- CINによると、9月末までに65船社、206隻のクルーズ船が運航再開。全世界のクルーズ船のほぼ半分が運航再開した。
- 運航再開は5月の55隻の船舶が再開していたが、7月に米国で再開したことで、その月末までに141隻の船舶が再開。
- 5～9月にかけて、1隻あたりの平均乗客数も994人から1,454人までに大幅に増加。

クルーズ再開状況（2021.11時点）

- CINによると、11月には64船社、230隻のクルーズ船が運航を再開予定。
- 航行中の船舶は14隻のみだった2021年2月以降、積極的な再開を続けている。

50万人以上が乗船したロイヤルカリビアングループでのCOVID-19症例は150件のみ（2021.11）

- ロイヤルカリビアン会長兼CEOのリチャードフェインは「CDCが2022年1月中旬から条件付き航海命令を自主的な運用に変更するという動きは大歓迎である。わが社の要件とプロトコルはCS0よりも厳しい。一方で、より長い国際クルーズについてはまだ不安がある」と述べた。
- 同社の安心・安全なクルーズの成功は広く認知されており、「CS0の有効期限が切れた後に自主的に運用するプロトコルに関して、CDCとの継続的なコラボレーションを継続する」としている。
- ロイヤルカリビアングループは現在、60隻の保有船舶のうち41隻（65%以上）が再開。
- 先週末にマイアミを出航した「Freedom of the Seas」の稼働率は85%であり、この船はクルーズ初心者向けの商品であるため、非常に注目された。

オミクロン株の影響による 世界のクルーズ動向（2021.12～2022.1）

- 2021年11月から南アフリカで発見されたオミクロン株が、年末年始にかけて世界中で拡大しており、クルーズの再開状況にも大きな影響が出ているため、今後もクルーズ動向について注視する必要がある。

【地域別の事例(CIN、SCN記事より)】

【香港(22年1月5～6日記事)】

ドリーム・クルーズは、香港発の無寄港クルーズを運航しているゲンティン・ドリームについて、船内にコロナウイルス感染者がいなかったにもかかわらず、現地政府の要請を理由に1月5日と1月7日の香港発を中止することにしたと発表。

その後、オミクロンの亜種の感染を食い止めるための広範な政府の措置の一環として、1月20日までの2週間停止を発表。

【オーストラリア(21年12月10日記事)】

2020年3月18日以来のCOVID-19パンデミックの間にオーストラリア人を保護するために実施された期間は2022年2月17日まで続くと述べた。これによりオーストラリアの領土内のクルーズ船の入国の制限も継続。

【アメリカ(21年12月30日記事)】

米国疾病対策予防センター(CDC)は2021年12月30日、クルーズに出かける米国人に対し、予防接種の有無にかかわらず、クルーズ旅行を避けるよう改めて渡航警告を発令。

【マイアミ(21年12月19日記事)】

2021年12月18日(土)に、マイアミ港で下船したロイヤルカリビアンインターナショナルのシンフォニー・オブ・ザ・シーズは48件のCOVID-19症例が発生

【バハマ(21年12月31日記事)】

バハマ政府はMSCクルーズ社が自社で保有する無人島のプライベートビーチへの寄港を12月29日から禁止。

【ブラジル(22年1月3日記事)】

CLIA(Cruise Lines International Association)ブラジルの声明によると、1月21日までブラジルでのクルーズを自主的に停止

世界のクルーズ市場の見通し（2021.11時点）

- CINによると、2022年初頭にはクルーズ船の大部分が再開すると予想し、RCIによるワールドクルーズの販売好調など、明るい兆しが見られていた。
- 一方で、コロナ以前の水準までの回復にはまだ時間がかかるとも予想していた。

全地域

- CIN：2022年初頭までにはクルーズ船の大部分が再開する。
- MSC：CEOは、2022年春にはコロナ前の水準にまで予約が戻り、2023年にはさらに良くなる。
- RCI：2023年後半から始まる274泊の同社初のワールドクルーズが、販売開始後1週間で70%が販売。

欧州

- MEDCruise：2023年に向けて明るい兆しだが、2023年にコロナ前の水準への回復には否定的。
- イタリア：2022年、国内で600万人の乗客と3,000回の寄港を予測し、2021年より増加。一方で、コロナ前の水準までには時間がかかる見通し。
- サウサンプトン港（ABP）：クルーズ部門責任者「2022年はかなり良い方向に向かっており、海外旅行が回復する」

アジア

- シンガポール観光局（STB）：コロナ以前の水準には、2024年か2025年までに達成できると予測。
- RCI・Costa：中国で国際クルーズが再開される兆候はまだない。
- RCI：中国本土からのクルーズ再開時期は、北京オリンピック終了後の2022年の第1四半期と予想
- RCI：将来的には、今までより長いクルーズで日本の東海岸や西海岸をめぐり、ウラジオストクまで行くことを期待。中国本土からの航海の承認を得ると、「スペクトラム」は上海に移動する予定。
- Costa：CSSCカーニバルに転籍された2隻※は、クルーズ再開後に中国本土に配船予定。

※「Costa Atlantica」及び「Costa Mediterranea」の2隻 11

オミクロン株の影響による 世界のクルーズ市場の見通し（2021.12～2022.1）

- クルーズ市場の動向においても、2021年11月から南アフリカで発見されたオミクロン株による影響は大きいと考える。
- 主なクルーズ船社のコメントとしては、2022年中はオミクロン株の影響を受けるとしているが、2023年以降については前向きな意見が見られる。

【船社コメント(CIN記事より)】

カーニバルクルーズライン

- ・ 2歳以上のすべてのゲストは、飲食時およびキャビン内を除く屋内ではマスクを着用し、大勢が集まり、物理的距離を保つことができない屋外ではマスクを着用する必要があると発表した。また、屋内では、保健所の指導により、よりグレードの高いマスクを使用することが推奨するなど健康と安全プロトコルの更新を行った。(21年12月18日)
- ・ オミクロン株の影響について「2022年後半や2023年のブッキングに大きな影響は出ていない」と発表。(21年12月20日)

ロイヤルカリビアンクルーズ

- ・ 「最近の世界でのCOVID-19の増加とオミクロンの亜種の懸念の追加により、実際に飲食する時以外、常に屋内でマスクを要求するように船内の健康プロトコルを一時的に強化することが賢明だと発表。(21年12月18日)
- ・ 上記を踏まえ、「オミクロン株の影響は、短期的にはマイナスの影響を与えると予想され、2022年は力強い過渡期となるが、2023年は非常に力強い年となるはずである。」と発表。(21年12月30日)